

# 性能評価型(事例11) 空気逃がし調整に放流バルブを活用した水質改善事例

## 【槽内状況】



維持管理要領書より 7人槽 循環水量1.9~3.9ℓ/分(2Q~4Q) 放流バルブ40%は調整の必要ない

事例番号	11		浄化槽メーカー	フジクリーン工業(株)		
処理方式	性能評価型 窒素除去型		浄化槽型式	CE		
法定検査日	平成 24 年 10 月 25 日		人槽	7人槽	使用人員	2人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	6	0	—	0	透視度	15 度
堆積汚泥厚(cm)	15	3	—	1未満	DO	7.8 mg/ℓ
透視度(度)	12	13	13		pH	7.6
法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	スカム厚、堆積汚泥厚の測定結果から負荷の低い施設です。 洗剤による発砲が多い。 ばっ気攪拌を弱めるため、放流バルブを80%で調整している。 循環水量3.5ℓ/分(バルブ開度30%) 日平均汚水量 0.52m <sup>3</sup> /日 採水時間10:00				
	対策	発砲が多くDOが高い為、更に攪拌水流を弱めるよう放流バルブを90%に変更。 1室から放流水まで透視度に変化がない為、循環水を停止する。				
保守点検からの措置 返信内容	10月26日	指示通り調整する。 消泡剤使用。			透視度	15 度
					DO	7.5 mg/ℓ
					pH	7.6
	11月9日	逆洗確認、生物膜少ない。 発砲多く消泡剤使用。			透視度	17 度
				DO	7.2 mg/ℓ	
				pH	7.6	
11月22日	生物膜の生成を確認する。 発砲が少なくなった。消泡剤使用。			透視度	26 度	
				DO	6.3 mg/ℓ	
				pH	7.5	
12月7日	発砲が減り、生物膜が生成し透視度が改善しました。 放流バルブ90%、循環水量停止中。 今月下旬の保守点検まで様子を見る。			透視度	41 度	
				DO	4.8 mg/ℓ	
				pH	7.3	

## 【ポイント】



① 循環水量3.5ℓ/分(流入水量に対して多い)  
流入水量2Q計算で0.72ℓ/分

② 洗剤の影響で発砲が多い。

③ 循環バルブ(灰色)30% (標準設定)  
散気バルブ(青色)50% (標準設定)  
放流バルブ(白色)80% (標準より多い)